

平成27年度移植対策関係予算（案）の概要

<平成26年度予算額> <平成27年度予算（案）> $\left(\begin{array}{c} \text{対前年度比} \\ 102.1\% \end{array} \right)$
27.7億円 → **28.3億円**

<注>他局課計上分を含む

造血幹細胞移植対策の推進

20.6億円（20.3億円）

■ 患者の病気の種類や病状に応じて、3種類の移植術（骨髄移植・末梢血幹細胞移植・臍帯血移植）から適切な移植術を選択し実施できる医療体制の整備や、治療成績の向上を図るとともに、造血幹細胞移植に必要な基盤（バンク）の安定的な運営を支援する。

⑨ 造血幹細胞移植医療体制整備事業

249百万円（164百万円）

患者の病状に応じて、3種類の移植術のうち適切な移植術を実施できる体制を確保した拠点的な病院を整備し、造血幹細胞移植に関する人材育成や診療支援等を行うことにより地域の造血幹細胞移植医療の体制整備を図る。

骨髄移植対策事業費（骨髄バンク運営費）

446百万円（460百万円）

初期コーディネート期間の短縮のための措置を強化するとともに、骨髄・末梢血幹細胞提供あっせん事業者（骨髄バンク）の安定的な運営を引き続き支援する。

さい帯血移植対策事業費（さい帯血バンク運営費）

578百万円（592百万円）

臍帯血供給事業者（さい帯血バンク）の安定的な運営を引き続き支援する。

造血幹細胞提供支援機関業務経費等

781百万円（809百万円）

骨髄等ドナーのHLA（白血球の型）の検査及びデータ登録や治療成績等の向上につなげていく体制整備等の骨髄・末梢血幹細胞提供あっせん機関及び臍帯血供給事業者に対する支援を行う支援機関（日本赤十字社）の安定的な運営を引き続き支援する。

（参考）【平成26年度補正予算案】

造血幹細胞移植関連情報の共通基盤データベースの構築 3.8億円
 患者がより移植を受けやすくするため、造血幹細胞移植関連情報の共通基盤データベースを構築して、現在日本赤十字社等の機関ごとに別々に管理されている各システムと接続する。

末梢血幹細胞採取体制の整備

メニュー予算

造血幹細胞数測定装置の整備に対する補助（定額）を行い、末梢血幹細胞採取認定施設の拡大を図る。

臓器移植対策の推進

6. 3億円（6. 0億円）

- 脳死下での臓器提供が着実かつ適切に実施されるよう、より多くの国民に臓器移植に関する正しい知識を持ってもらい、自身の意思を表示してもらえよう普及啓発を進めるとともに、臓器提供施設の体制整備や負担軽減のための支援を行う。

臓器移植対策事業費（日本臓器移植ネットワーク運営費） 609百万円（570百万円）

公平かつ適正なあっせんを行うため、臓器のあっせん業務を行う際の中心的役割を果たす臓器移植コーディネーターの確保とともに、資質の向上のための研修の実施、地域におけるあっせん体制の整備など、臓器移植ネットワークの体制整備を図る。

- ・**新** 臓器提供施設における選択肢提示対応支援 41百万円（ 0百万円）
臓器提供施設において、終末期医療の説明の中で臓器提供に関する選択肢を提示することに関する実態等を把握するとともに問題点や課題を検討し、患者家族の心情にも配慮した対応方法を医療機関において整備することへの支援を行う。

普及啓発事業費 25百万円（ 25百万円）

臓器提供に係る意思表示が可能となる15歳を対象とした中学3年生向け啓発冊子の作成・配布のほか、脳死下での臓器提供事例の検証のために必要な経費を確保すること等により、国民の移植医療への理解や意思表示の必要性について啓発を図る。

(参考)【平成26年度補正予算案】

臓器移植希望者（レシピエント）検索システムの改修 1. 5億円
臓器移植希望者（レシピエント）検索システムのバージョンアップ及びより正確かつ迅速なレシピエント決定を行うための新たな機能の追加を行う。

移植医療研究の推進

1. 3億円（1. 4億円）

- 臓器移植・組織移植・造血幹細胞移植のそれぞれについて、社会的基盤に関する研究及び成績向上に関する研究を推進する。
※厚生労働科学研究費（大臣官房厚生科学課計上分）

ご質問等の問い合わせ先
厚生労働省 移植医療対策推進室
担当者：菊田、原
電話番号：03-3595-2256